

市長記者会見記録

日時：2018年12月20日（木）14時00分～14時32分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：平成30（2018）年川崎市10大ニュースの決定について（総務企画局）

<内容>

《平成30（2018）年川崎市10大ニュースの決定について》

【司会】 お待たせしました。ただいまより、市長記者会見を始めます。本日の議題は、「平成30（2018）年川崎市10大ニュースの決定について」となっております。それでは、福田市長から御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、平成30年の年末に当たり、川崎市10大ニュースが決定いたしましたので、発表いたします。

10大ニュースは1年を振り返り、市民の視点から市政や市全般にわたる動きがどのように捉えられているかを把握し、今後の市政運営の参考とするとともに、市の取組や魅力ある資源を発信することで市のイメージアップを図ることを目的として、毎年実施しております。

決定方法といたしましては、平成30年に市内で発生した事柄についてお示した、11月上旬までのニュース候補44件を対象に投票いただき、得票数の多い順に1番から10番までを、「川崎市10大ニュース」といたしました。

投票状況につきましては、配付資料1ページ目のおり、投票者数は5,765人で、投票を開始した平成10年以来、最多となりました。

投票結果につきましては、資料の次のページ、「平成30年川崎市10大ニュース投票結果」を御覧ください。第1位は、4,576票を獲得した「川崎フロンターレ Jリーグ2連覇!」でございます。続いて2位は、「JR川崎駅、東西をつなぐ『北口通路』の供用開始」、第3位は、「第77回川崎市制記念多摩川花火大会が秋に開催」、第4位は「日本最大級のハロウィンイベント『カワサキハロウィン2018』開催」、第5位は「川崎フロンターレ大島僚太選手が2018 FIFAワールドカップロシア大会日本代表に選出」となりました。以下、資料のおりですが、参考に20位までお示ししております。

上位に入ったニュースの感想といたしまして、まず、第1位となった「川崎フロンターレ Jリーグ2連覇!」につきましては、川崎フロンターレが明治安田生命20

18 J1リーグ戦において、昨シーズンに続き連覇という偉業を成し遂げました。大変喜ばしく、誇りに思っております。家長昭博選手のJリーグ最優秀選手賞受賞や、多くのサポーター、市民の方々と喜びを分かち合った優勝記念パレードなど、明るいニュースが続き、AFCチャンピオンズリーグや来季のJリーグでのさらなる活躍に期待が膨らむところです。

第2位は、「JR川崎駅、東西をつなぐ『北口通路』の供用開始」です。1日の乗降客数が40万人に及ぶ川崎駅の混雑緩和や駅周辺の回遊性向上など、通路の完成により、まち全体のさらなる活性化が期待されているところです。

また、観光案内所や行政サービスコーナーなどの機能を持つ「かわさききたテラス」もオープンし、市の名産品等も販売されています。新しい川崎の玄関口としての取組を引き続き進めてまいります。

第3位は、「第77回川崎市制記念多摩川花火大会が秋に開催」でございます。これまで8月に開催しておりましたが、近年、夏季における集中豪雨などにより開催に影響することが多くなり、来場者の安全・安心を最優先するため、天候が比較的に安定している秋開催へと変更いたしました。対岸の世田谷区たまがわ花火大会も同時に開催され、1万2,000発の花火が秋の夜空を鮮やかに彩り、多くの人の目を楽しませてくれました。

第4位は、「日本最大級のハロウィンイベント『カワサキハロウィン2018』開催」です。22回目となった今年は、新川通りの全6車線を使用したダイナミックなハロウィン・パレードに初挑戦いたしました。華やかに仮装した約2,200人の参加者が1.5キロのコースを練り歩き、国内外からの約12万人の観客とともに大いに盛り上がりました。

第5位の「川崎フロンターレ大島僚太選手が2018 FIFAワールドカップロシア大会日本代表に選出」でございますけれども、試合出場はかないませんでした。世界の大舞台での活躍に期待を寄せ、多くの市民が誇りに思ったのではないのでしょうか。川崎フロンターレでは、日本人選手としては初の背番号10番を背負い、その卓越した技術でJリーグ2連覇にも大きく貢献してくれました。

その他、全体的な感想といたしましては、今年は「教育文化会館の大ホール閉鎖」のような歴史に思いをはせるニュースや、「全国初・タニタ監修の学校給食」「市内初・本格的なコンベンションホール完成」のような新しい取組、また、「生田緑地ばら苑開苑60周年」に花を添える、小田急電鉄による生田緑地の整備案が公表されるなど、夢の膨らむニュースもありました。

さらに、「光触媒の藤嶋昭さんが名誉市民」に選ばれ、ますますの御活躍が期待されるなど、市民の皆様の印象に残ったニュースが多くあるのではないかと思います。

スポーツに関するニュースが多いのも川崎の特徴だと思っております。投票で1位となった川崎フロンターレのほかにも、かわさきスポーツパートナーであります川崎ブレイブサンダース、NECレッドロケッツがともに躍進しておりまして、先日17日には、富士通フロンティアーズがアメリカンフットボールのJAPAN X BOWLで3連覇を果たし、四度目の優勝を飾りました。投票の結果、20位までには入りませんでした。河合来夢さんがユースオリンピックの新種目「ブレイキン」2部門で金メダルを獲得するなど、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運も高まった一年だったと感じております。

「平成30年川崎市10大ニュース」の発表は以上でございますが、来年も市民の皆様にとって明るい話題が多い、よき一年になることを願っております。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明いただきました「川崎市10大ニュースの決定について」の質疑に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、本件の質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いたします。

【幹事社】 お願いします。10大ニュースですが、この結果に関するご感想は先ほどおっしゃっていただいたんですけれども、市長が思われる、これがもっと入ってほしかったというようなニュースは、河合来夢さん以外で何かございますでしょうか。

【市長】 1位から3位、5位ぐらいまでは、まあ、そうだなという、私の感覚も市民の皆さんも一致しているなという感じはいたしましたけれども、これは低かったなというのは特にはないですね。順当な感じはいたします。

【幹事社】 ありがとうございます。

【市長】 意外に高かったというのがありますね。

【幹事社】 どれですか。

【市長】 意外に高かったのは、「3年連続で政令指定都市唯一の普通交付税不交付団体に」です。17位ではありますけれども、20位以内にこういうのが入るんだというのは、今日、お集まりの記者さんたちがよく取り上げていただいた結果の表れかと。市民の皆さんにも伝わったのではないかと思います。感謝しております。

【幹事社】 ありがとうございます。では、各社さん、今の件で何かございましたらお願いします。

【記者】先ほど、1位のフロンターレ連覇のコメントで、大変喜ばしく、うれしく思っていますというお言葉、市長としてのお言葉だと思うんですが、私人、個人としては、フロンターレの優勝を振り返られてどのように、また、逆転での優勝だったかと思うんですけれども、一ファン、サポーターとしてはどのように受け止めていらっしゃいますか。

【市長】最初の出だしは、大丈夫かなというのはあったんですけど、ほんとに序盤だけで、中盤以降は非常にいい形で来ていたので、見ていて非常に安心感のあるというか、王者らしい戦いをさせていただいて。去年は、10大ニュース（の候補）に掲載するのが間に合わないで、ぎりぎりのところまで来てしまいましたけれども、今回は十分に間に合った、堂々たる勝利だったと思います。私の個人的な1位も、このフロンターレの連覇でありますので、ものすごくうれしいですね。

【記者】フロンターレには、来年に向けてどのような期待をされますか。

【市長】やはりここまで来ると、3連覇というさらなる偉業に向けてということと、アジアチャンピオンズリーグもそうですけれども、ほかのタイトルも。昨日の鹿島のような戦い方を見てみると、やはり川崎の名前を、国内のみならず世界に飛び出してもらいたいなという気持ちはあります。

【記者】あと、もう1点お願いします。この10大ニュースを募集するに当たっては、市政運営の参考とするというようなお題目も掲げられておりますが、この順位を見て、何か参考にしたいなとか、気になるな、市民はこんなところに関心があるのか、はっとさせられるような部分、もしくは、今後、市政運営に反映して気に留めたいなというようなものは…。

【市長】これは川崎だけではないかもしれませんが、特に、川崎の若い人たちの活躍が大変目立った一年だったかなと思います。先ほど申し上げた、河合来夢さんの活躍もそうですけれども、例えば、音楽のまちづくりももう14年目を迎え、まさにその世代で育った「SHISHAMO」が自由記述欄の中では一番多かった項目で、SHISHAMOの等々力の凱旋コンサートは残念ながら台風で中止になってしまったというのはかなりショックが大きかった一方で、やはり応援したいという気持ちがたくさんあったことの表れなのではないかと思います。そういう意味では、本当にスポーツ、文化、様々なところで若い世代の活躍が大いに出てきているということが、ある意味、川崎の特徴だし、そこに対する関心も非常に高いということを感じています。先ほども申し上げましたけれども、スポーツに関するところが非常に多いというのは、いかに川崎が「見る」、「する」、あるいは「参加する」というか、「応援する」という

ところで盛り上がってきているということなので、スポーツ振興や、あるいは、等々力の整備についても、皆さん、関心が高いところだと思いますが、そういうところにもしっかりと生かしていきたいとは思っています。

【記者】 最後、個人的意見なんですけれども、花火大会が秋に開催というのが3位に来ているのは、ちょっと驚いたというか。要は、積極的に捉えているのかなと読むんですが、市長はどのように…。

【市長】 僕も、これは非常にうれしく見させてもらいました。やる前までは、意外と秋開催に対する反応はどうなんだろうねとすごく心配していた向きはあったんですけども、実際に開催してみると、皆さん、非常に喜んでいただいた。秋は秋なりの楽しみ方があるということを感じていただいたのではないかと思います。

【記者】 それで、この票にあらわれているのかなと思ってらっしゃる。

【市長】 そういうふうに感じております。

【記者】 わかりました。ありがとうございました。

【幹事社】 ほか、よろしいでしょうか。

【司会】 それでは、本件につきましては終了とさせていただきます。

《今年を表す漢字について》

【司会】 続きまして、市政一般に関する質疑応答をお願いします。進行につきましては、改めて幹事社様、よろしくお願いたします。

【幹事社】 よろしくお願います。今回は、定例会見として今年最後の開催となりますけれども、市長に、今年を表す一字というのを伺いたしたいと思います。

【市長】 必ず聞かれると思い、もう準備してきてしまったんですけども、出してよろしいでしょうか。「連」です。

【幹事社】 その理由をお聞かせください。

【市長】 これはやはり、川崎フロンターレ連覇の「連」でありますし、フロンターレだけじゃなく、フロンティアーズの3連覇というのもあります。それから、今年、大いに議論しました新しいコミュニティの考え方ということで、いろんなコミュニティの新しい連携のあり方を大いに議論して、これからどんどん進めていくよというつながり、連携という、そういうことが今年はキーワードだったのではないかと思います、「連」という言葉にさせていただきました。汚い字で申し訳ありません。

【幹事社】 それは結構練習なさったんですか。

【市長】 ええ、今日、ちゃっちゃと。

《「平成」の振り返りについて》

【幹事社】 ありがとうございます。ちょっと関連かもしれませんが、同時に、平成という時代が終わりを迎えつつあるわけですが、まだ若干平成は続きますけれども、年の終わりでございますので、この機にこの30年、市政のことも含めまして、市長なりの御所感をお伺いしたいと思います。

【市長】 この平成30年の間に、川崎市の人口が37万人増えている。地方でいくと、かなり大きな都市1個分が30年間で1つ増えてしまうという大変大きな人口増の躍進の平成だったと思っています。

それと、やはりこの30年間の中でも、産業転換はものすごく進んだ平成の時代で、ずっと「工都川崎」というキャッチフレーズというか、物でやってきたものから、工業が下支えしていることは間違いないんですが、それ以上にやはり研究開発が進んだり、大きく産業転換が進んだなど。製造業が大分減っていく中で、第3次産業はぐーっと増えていく。研究開発都市あるいは情報関連の人口が、川崎市は、突出して多いというのが、この30年間での急速な変化だと思います。そんな変化の中でも着実に成長を続けているということに、先人たちの努力があったのかなと改めて思わせていただいております。

高齢化も30年間で2.5倍に増えていますし、そういう意味では、この影響はこれから、首都圏だとか都市部のところはより強く影響を受けてくると思いますので大変かなとは思いますが。ただ、これまでの30年間の変化に柔軟に、かつ前向きにチャレンジしてきたことは、今の川崎の発展につながっていると思うので、これからも頑張っ

《川崎フロンターレの活躍について》

【幹事社】 ありがとうございます。最後に、先ほどの話ともちよつかぶってくるんですが、先日のJリーグアウォーズで、家長選手、MVP、大島選手の最優秀ゴール賞、1チームから3年連続のMVP史上初、ベストイレブン7人は1チームからも最多タイなどなど、Jリーグで川崎フロンターレの年であったことを示すかのような非常に記録的な成果を、賞レースじゃないですけど、そういう場でも示してくれました。いろいろ記録的でしたけれども、これについての御感想をお願いいたします。

【市長】 川崎市という都市自体が受容性の高いところだと思っているんですが、川崎フロンターレも非常に受容性が高いというか、他チームで活躍していた、あるいは、ちょっと合わなかったという選手も川崎のフロンターレに来て、この人の特徴はこう

生かせばいいんだというのをチーム全体で受容していると。家長選手もそうですし、前と言えば大久保選手もそうですし、個性的な選手がフロンターレに来て花開くというのは、その特性をうまく受容していくことが、クラブ、選手にもあるし、それを認めるサポーターというか、みんなが受容性の高いものになって、多様性を認めるというか、そういうものがやはり成功につながっていると思いますので、まさに「C o l o r s , F u t u r e ! 」 なんじゃないでしょうか。

【幹事社】 ありがとうございます。各社さん、お願いします。

《今年の振り返りについて》

【記者】 先ほど、あらかじめ市のほうで選んだ10大ニュースというのがありましたけれども、川崎市政にとって今年最大のニュースというのは何だったと市長、振り返られますか。

【市長】 市政にとっての10大ニュースですか。

【記者】 最大、一番のニュースを選べ、自分にとって今年1年やったということを含めて、1つだけ挙げてくれと言われたら何を選びますか。

【市長】 たくさんあるんですけど、非常にインパクトがあったという意味では、これまでやってきたことを裏付けるかのような話なんですけど、今年は災害が全国ですごく多くあり、それに派遣した職員はたくさんいたものですから、その経験をさらに川崎市に生かしていく。今年は、九都県市の防災訓練もありましたけれども、それだけじゃなくて、それぞれの地域の防災訓練だとか、防災対策に生かしてきたという思いはあります。そういう意味では、他の地域で起こった災害を自分たちのものとして捉えて、そして、動いてきたと思っています。一事業ということじゃなくて、市全体で取り組んできたということだと思います。

【記者】 それとは別に、今年一年、もう少しこういうことをしておけばよかったなであるとか、もう少しここをやれたんじゃないかな、やり残したこと、もしくは、もうちょっとやれたと思ったようなことがあったら教えてください。

【市長】 そうですね、川崎市としてということでは、なかなか、やり残したということはないんですけども、今年一年、非常に大きなことから、細かなことまでの不祥事もございましたので、改めて、事務ミスも含めて、年の終わりに再点検して、来年は決してそういうことが起こることがないようにしたいと思っています。今年も非常に（不祥事が）多かったですから、行政的には、しっかりとした内部統制を行っていくことの大事さというものを思い知った一年でも、行政的にはございました。

【記者】 なるほど。先日の会見でもちょこっと出たような記憶もあるんですけども、やっぱりOBの方が出向なり再就職されている外郭団体なり出資法人なりとの間のいろんな事務に関する不祥事なりトラブルというものが私も何件か目に付いたなどという印象もあって、先ほども、年の終わりに再点検して、しっかりとした内部統制というお話もありましたけれども、OBの行っている団体との付き合いみたいなものをどういうふうにしていくのか、どういうふうにしていく形が望ましいと捉えているのか、今の時点で何か、こういうふうに変えていこうと考えていることがあったら教えていただけますか。

【市長】 これまで通り、しっかりと指針があって、そのことをしっかりと遵守していくことが大事なのであって、この前の会見でも、当たり前前を当たり前前にくれよという話はいたしました。普通、誰が見ても、うちの職員も、こんなことあり得ないだろうということがあるわけで、ですから、そういう意味での凡事徹底をやっていくことが大事なのだろうと。新しく何かをとというよりも、今、ちゃんとルールがあることをしっかりとやるという。それは外郭（団体）であろうが、庁内であろうが同じだと思っています。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《不適切な保育について》

【記者】 お願いします。おとといの市議会で、小田議員から出ました保育所内での虐待のことについてなんですけれども、市長としても、9月末あたりにお知りになったということを伺いまして、最初にそのことを知ったときの感想というか、どういうふうにお思いになったのかということをお教えしてもらっていいですか。

【市長】 まず、実態をしっかりと把握してということ。もう既に私が知った時点では、(市の)職員は入っていましたので、そういった意味では、しっかりと現状把握と、今、どう対応していくのかとをしっかりとやっていこうと言いました。感想というよりも、むしろその状況をしっかりと把握して、その対応をきちんとやろうということだったですね。

【記者】 検証報告書も来年の夏ごろまでまとめたいという話も出ていると思うんですけども、検証報告書では何を精査して、どのようなことを洗い出そうとしているかというのを、今わかる範囲で教えてもらってよろしいですか。

【市長】 いや、どういう報告書をまとめていくのかというのは、私自身、まだ聞いておりませんので。

【記者】 今日、当該の保育園の保護者の方にお話を伺いに行きまして、やはり誰が虐待されて、もう卒園したのかも保護者の方もわかっていない状況でして、認可保育所に通っている保護者もかなり不安をあおられているというか、そういう形になっていまして、その中で市長から、例えば、保護者の方にかける言葉というか、保護者に対してはどのようなお気持ちであるかというのを一つ教えてもらってよろしいですか。

【市長】 まず、個人情報も含まれていることですし、現在も通っているお子さんもいらっしゃるし、大事なことは、現状、適切な保育がその園で行われているかということだと思います。そのことはしっかり担保しているということでもあります。下手に風評被害だとかそういったことがあっては決してならないと思いますので、私の発言も非常に気をつけなくてはならないと思います。ぜひ報道の方もご理解をいただきたいと思いますが、現時点ではしっかりとした、安全に保育が行われていますので、その点については心配ないと私どもは理解しております。

【記者】 9月に、その保育園の保護者説明会が市の職員も参加して行われたということなんですけれども、それ以前にも、5月、7月にその保育園で保護者説明会というのは行われたと聞いていまして、その時は責任の所在が保育園の中だけで結論を出してしまって、結論が出なかったということなんです。そこで、9月になって初めて市の職員が入って、いろいろ説明会を開いたほうが良いということで、初めて9月の段階で市の職員が入ったと思うんですけれども、5月、7月の時点で、市の職員というのは、ある程度把握なり、そうした動きは早目にとれなかったのかなというところを1つ考えているんですけれども。

【市長】 時系列的な資料がございませんので、その点については、また後ほどお答えさせていただきたいと思いますが、いずれにしても、これだけ多くある保育所の中で、保護者の方、あるいは関係者から苦情や問い合わせそういうものはものすごい数がございます。その情報を精査して動いていますので、この1園だけがものすごいことというよりも、全体としていろんな情報がある中でしっかりと情報を精査して、私どもは必要な時に出ていくということをちゃんとやらせていただいていると思っていますので、そこは誤解なきようにしていただきたいと思っています。

【記者】 今回、こども未来局の保育課が対応に当たっていると思うんですけれども、保育課自身も、今回の問題だけじゃなくて、川崎市はほかにもいろんな課題を抱えていると思いますし、そこに対するアプローチもしっかりしなきゃだめだと思うので、そこだけというのは難しいと思うんです。例えば、保育課じゃなくて、ほか

の部署とも連携して、こうした問題に取り組んでいきたいというお考えとか、今現在ございますか。

【市長】 これは当初の計画で皆様にもお伝えしていると思いますが、いわゆる新たな公立保育所のあり方ということで、要するに、公立保育所というのは全体的に、(民間の)認可保育所も新しい園が増えて、まだ経験の浅い保育士の方は大変増えていきますので、そこに対して研修、そして、これからアウトリーチしていくという形で現在も取り組んでいますし、その機能をより強化していく。そういった意味で、保育の質をしっかりと担保していくことは、これからはしっかりと取り組んでいかなければいけない重要なテーマの一つだと考えていますので、そういう形でやっていきたいと思っています。

【記者】 最後に1点だけ。今回、この問題だけではなくて全体に言えることだと思うんですけども、今日もお母さんとかにお話を聞いていると、やはりそういうことが起きた原因の1つに、保育士の方が足りないだったりとか、そもそも保育士さんのリソースが全然自分のところに割かれてないからこういうことが起きたんじゃないかということを保護者はおっしゃっていたんですけども、やはり、川崎市内全体で保育士の確保は、改めてどのようにお考えになっているか教えてください。

【市長】 保育士の確保自体は全国的に非常に厳しい状況であることは間違いないですし、パイが足りていないというのはそうだと思います。こんな急速に保育所を増やしていっていますから、当然保育士さんの取り合いになっている。そして、経験のある保育士さんの数、それ自体が少なくなっているのです、そういう課題認識のもとに質をどうやって担保していくかと。そのためにアウトリーチしていくという、あるいは研修をしっかりとやっていきたいと思っています。

【幹事社】 ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

【司会】 じゃ、以上をもちまして市長会見を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355